

みかさかわ
御笠川水系河川整備計画

平成 27 年 3 月

福 岡 県

みかさかわ
御笠川水系河川整備計画

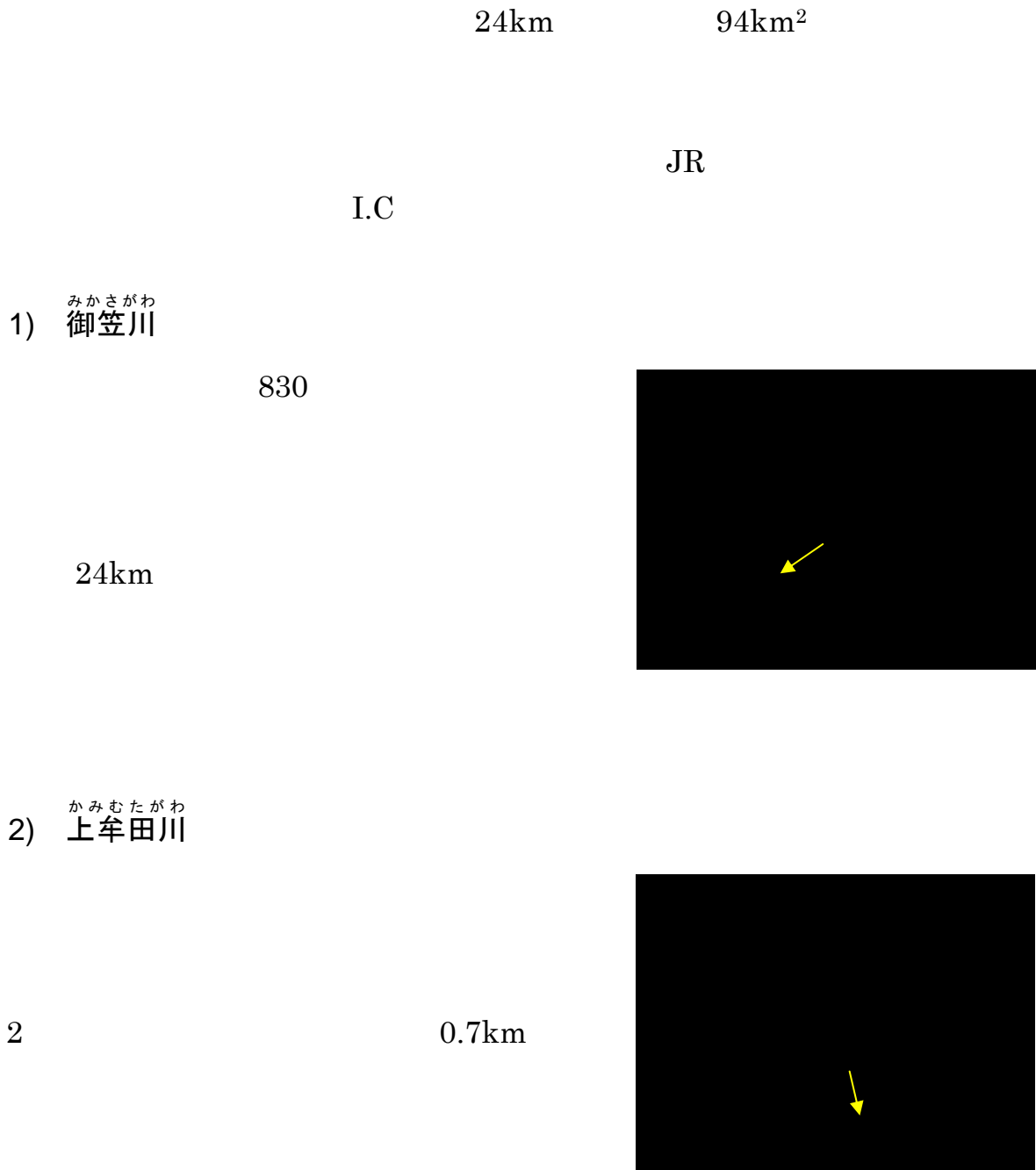
目 次

1. 流域及び河川の概要	1
1.1 流域及び河川の概要	1
1.2 治水の沿革	11
1.3 利水の沿革	11
2. 河川の現状と課題	12
2.1 治水の現状と課題	12
2.2 河川利用及び河川環境の現状と課題	15
3. 河川整備計画の目標に関する事項	18
3.1 河川整備計画における基本理念	18
3.2 河川整備計画の対象区間	19
3.3 河川整備計画の対象期間	19
3.4 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	19
3.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	21
3.6 河川環境の整備と保全に関する事項	21
4. 河川整備の実施に関する事項	22
4.1 河川整備の実施に関する考え方	22
4.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行 により設置される河川管理施設等の概要	23
4.3 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	28
5. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項	30
5.1 まちづくりと一体となった河川整備	30
5.2 地域と連携した河川管理	30
5.3 防災意識の向上	30
5.4 地下水涵養の促進	31

1. 流域及び河川の概要

1.1 流域及び河川の概要

(1) 河川の概要



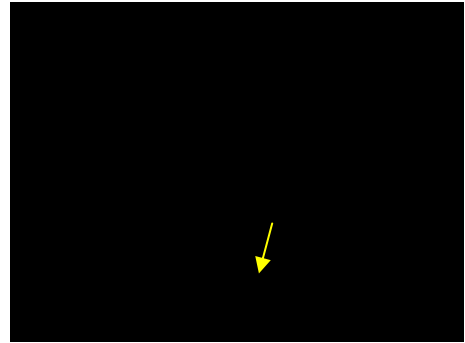
3) もろおかがわ
諸岡川

200

2

4.1km

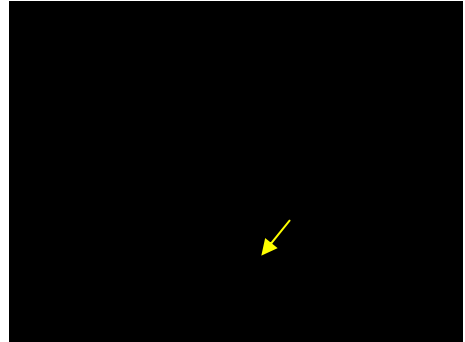
JR



4) うしくびがわ
牛頸川

450

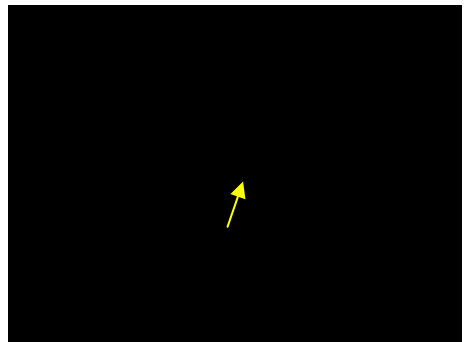
8.2km



5) おおさのがわ
大佐野川

330m

4.5km



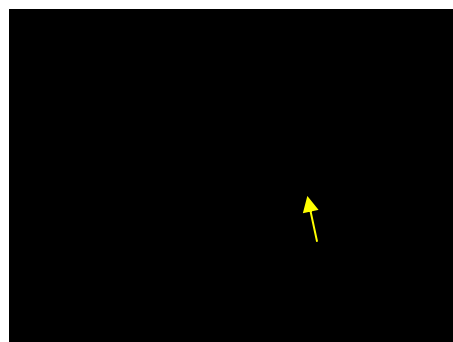
6) さぎたがわ
鷺田川

260m

5

2.1km

JR

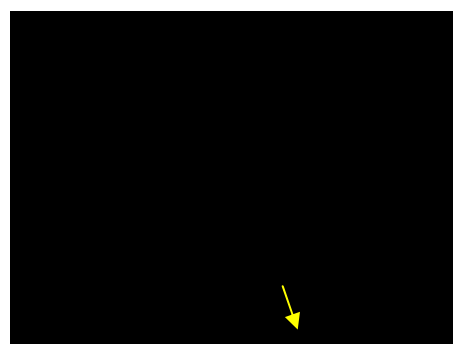


7) たかおがわ
高尾川

150m

2

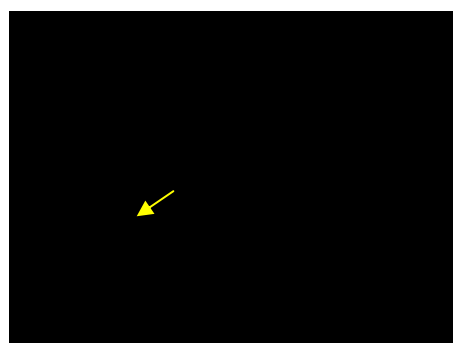
1.5km



8) だざいふはらがわ
太宰府原川

350m

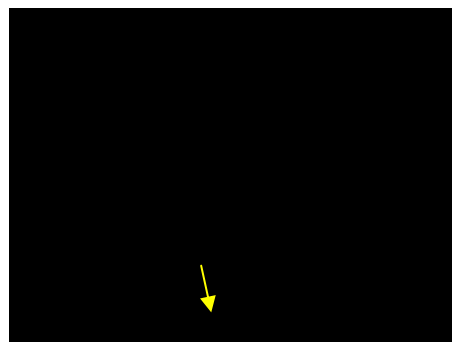
0.9km



9) みずがめがわ
水瓶川

350m

3
0.2km



10) やまのかみがわ
山の神川

600

1.2km

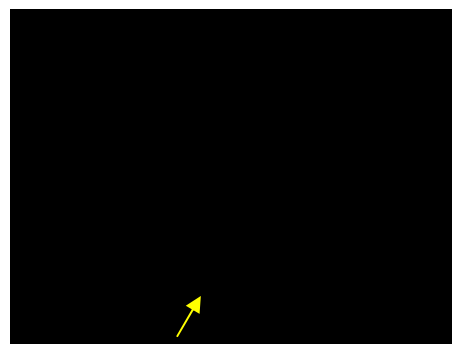




図 1.1 御笠川流域概要図

(2) 地形・地質

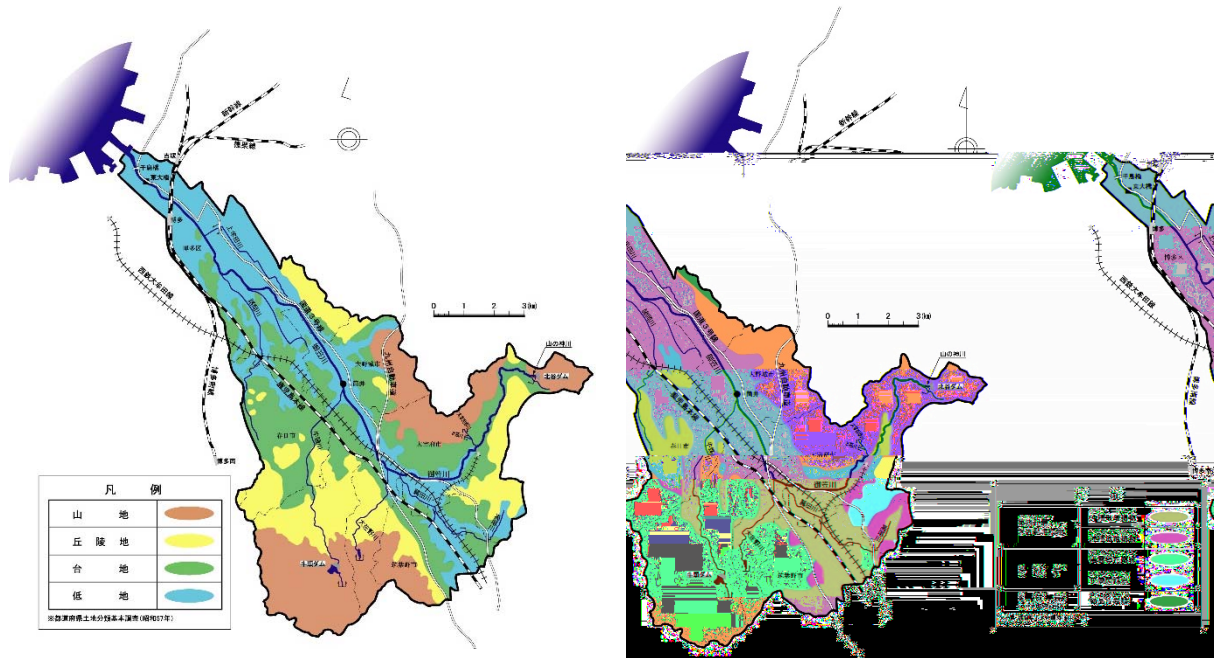


図 1.2 流域の地形・地質図

(3) 気候

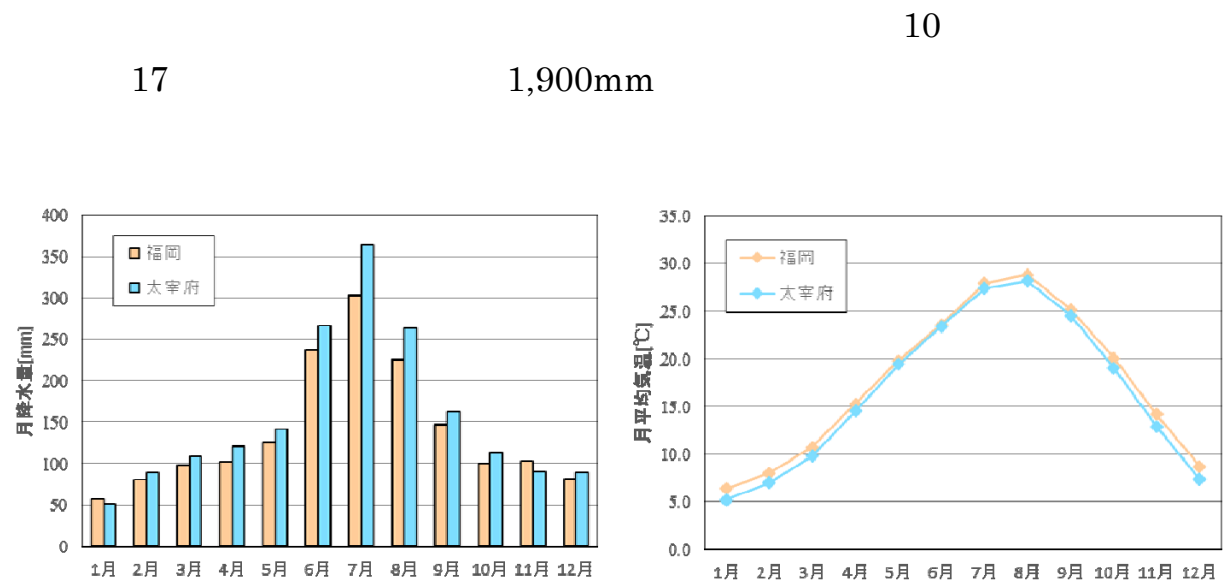


図 1.3 流域の月降水量と月平均気温 (福岡管区気象台・太宰府地域気象観測所データ)

(4) 土地利用

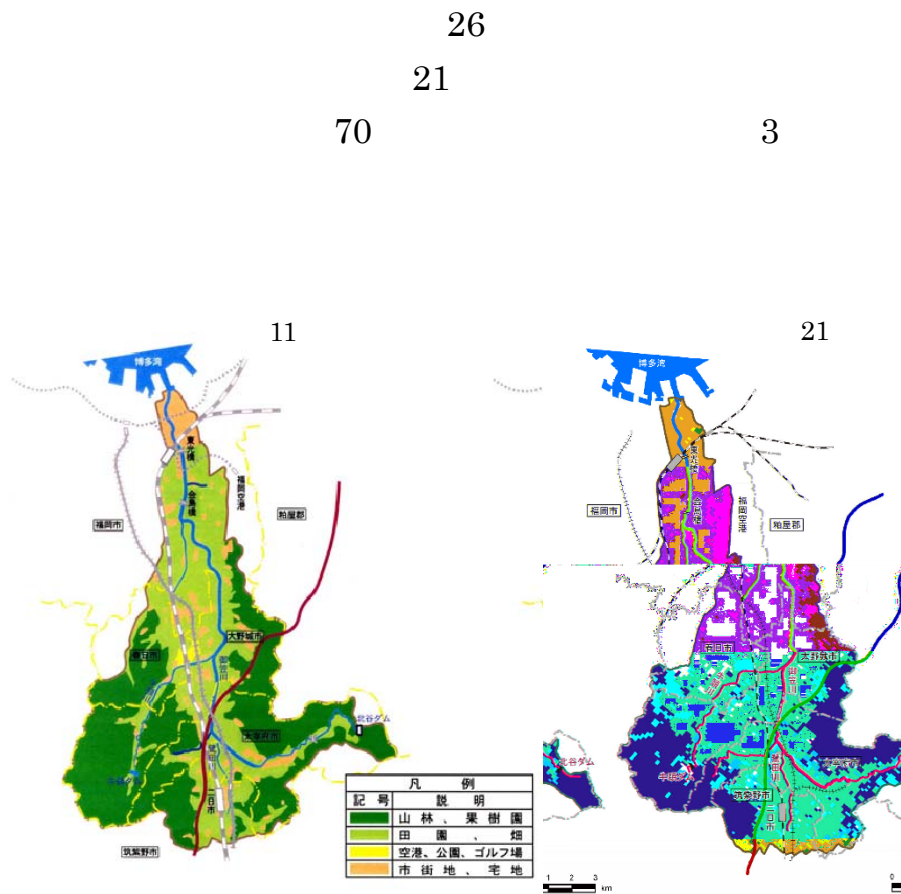


図 1.4 流域内土地利用の推移

(5) 歴史・文化



大宰府政庁跡
(国指定特別史跡)



聖福寺 (境内：国指定史跡)

(6) 自然環境

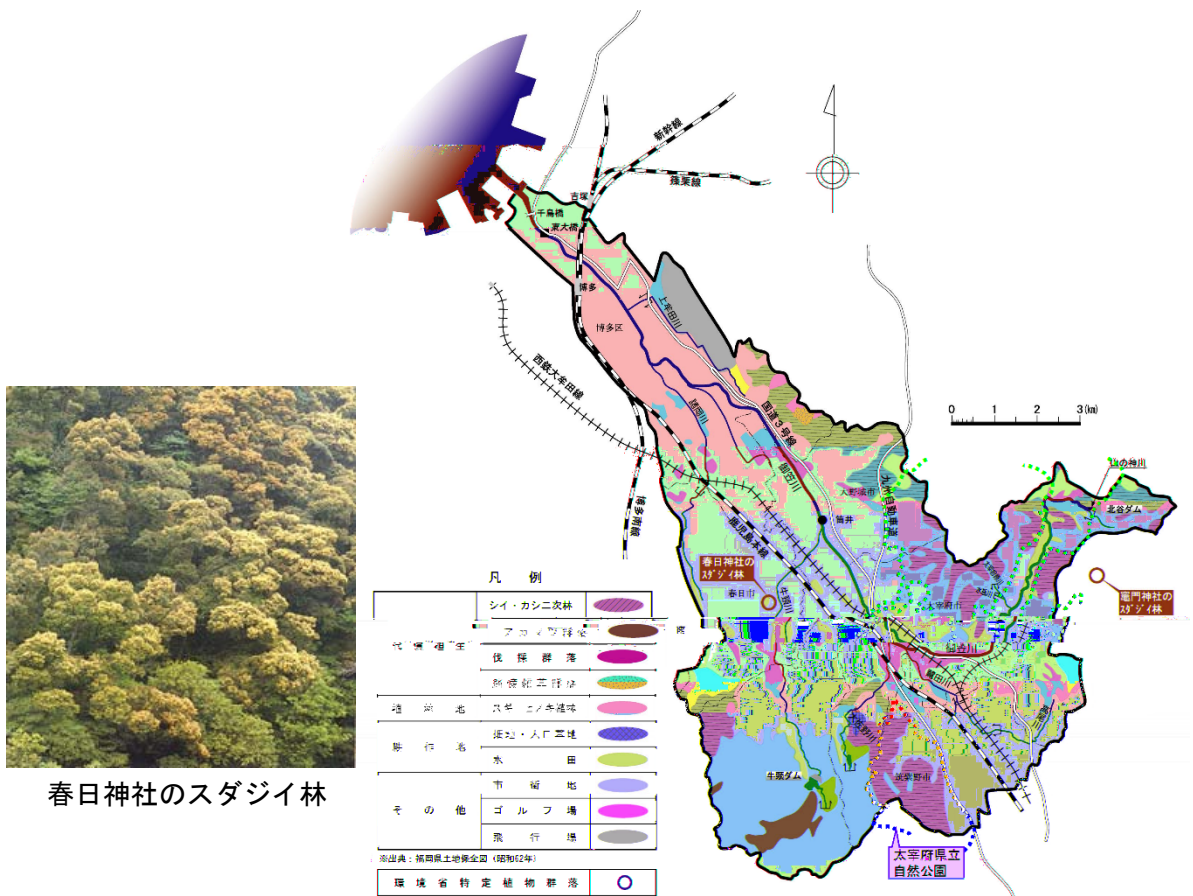


図 1.5 流域内の植生分布図

(7) 人口・産業

22

180

150

80

5

22

85

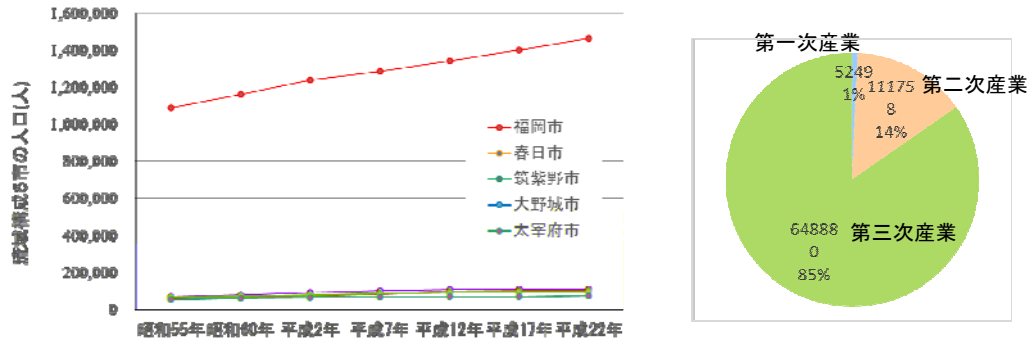


図 1.6 流域を構成する5市の人口の推移と産業別人口

(8) 交通

JR

IC



図 1.7 御笠川流域の交通網図

(9) 水質

BOD 3mg/l

BOD 8mg/l

BOD75%

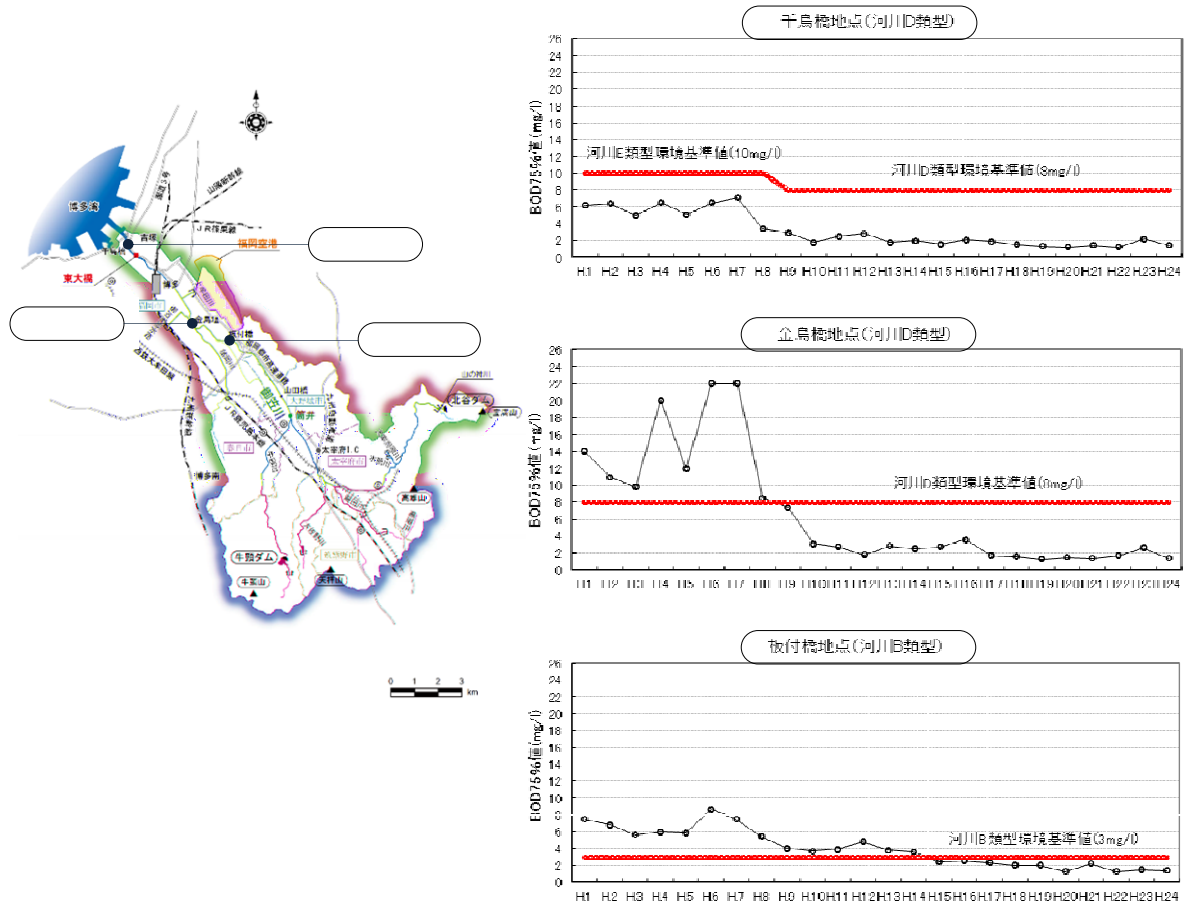


図 1.8 御笠川における水質経年変化

1.2 治水の沿革

38 6

46

3

11

11 7

15 7

2

20

21 7

22 7

24 7

26 8

1.3 利水の沿革

表 2.1 御笠川の主要な既往洪水一覧表

発生年月日	出水概要	降雨要因	水文状況		被害状況 ^{2)~4)}	河川名
			24時間雨量 ¹⁾ (mm)			
S28年6月	寒暖両気団が直接九州付近で強く接触して、梅雨前線の活動を活発にし、25日から26日にかけて豪雨となり総雨量は、600mmを超え、甚大な被害を受けた。	梅雨	約 310	床上浸水 床下浸水 全壊半壊	710戸 2960戸 30戸	御笠川、諸岡川 他
S38年6月	対馬海峡に停滞した梅雨前線により集中豪雨が発生し、家屋浸水等の被害が発生した。	梅雨	約 270	床上浸水 床下浸水 全壊半壊	1005戸 979戸 2戸	御笠川、牛頸川
S48年7月	九州北部は低気圧の通過で27日の夕方から本降りとなり、短時間に100mmに達し、梅雨末期を思わせる集中豪雨となった。	前線	約 180	床上浸水 床下浸水 全壊半壊	683戸 2204戸 21戸	御笠川、牛頸川、 鷺田川、高尾川
H 3年7月	台風9号が29日の午後に対馬海峡を通過し、暴雨風となり、家屋浸水等の被害を受けた。	台風	約 160	床上浸水 床下浸水	30戸 173戸	御笠川、諸岡川、 上牟田川
H11年6月	低気圧が29日には対馬海峡を通過し、九州北部で梅雨前線の活動が活発となり、豪雨となった。その為、博多区のビル地下で浸水により1名が死亡したのをはじめ、地下街が冠水する等大きな被害が発生した。	梅雨	約 160	床上浸水 床下浸水 死者	1098戸 1478戸 1名	御笠川、諸岡川、 牛頸川
H15年7月	対馬海峡に停滞していた活発な梅雨前線の南下に伴い、18日夕方から19日朝にかけて記録的な豪雨となった。その為、19日早朝には御笠川などが氾濫し、各地で浸水被害が発生し、出水規模並びに被害はH11年6月出水を大きく上回った。本出水でもJR博多駅周辺が浸水し、再び都市型水害の脅威を見せ付けられた。	梅雨	約 250	床上浸水 床下浸水	2312戸 1923戸	御笠川、諸岡川、 鷺田川
H21年7月	対馬海峡に梅雨前線が停滞し大雨をもたらした「平成21年7月中国・九州北部豪雨」では、24日から26日にかけて、福岡県でも大雨となった。御笠川水系では、26日に高尾川で氾濫が発生し、家屋浸水等の被害を受けた。	梅雨	307	床上浸水 床下浸水	92戸 48戸	高尾川
H22年7月	6月中旬から7月中旬にかけて九州から本州付近に停滞した梅雨前線により断続的に活動が活発となり、局地的に1時間80ミリを超える豪雨が発生した。御笠川水系では14日の豪雨により各地で浸水被害が発生した。	梅雨	233.5	床上浸水 床下浸水	37戸 60戸	御笠川、諸岡川、 鷺田川、高尾川
H24年7月	7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線により西日本から東日本の広い範囲で大雨となった。特に九州北部では断続的に雷を伴って非常に激しい雨となった。これに伴い、御笠川本川を含め局地的な浸水被害が発生した。	梅雨	209	床上浸水 床下浸水	17戸 5戸	御笠川、鷺田川、 高尾川
H26年8月	7月末から8月下旬に停滞した前線に伴い日本の広範囲で豪雨が発生した。高尾川では8月22日未明に1時間90ミリを超える豪雨により浸水被害をもたらした。	前線	169.5 (152mm/2hr)	床上浸水 床下浸水	46戸 46戸	鷺田川、高尾川

(注)1) 24時間雨量は全流域の平均雨量

(但し、H21、H22、H24、H26は高尾川近傍の太宰府(気象庁)の実績雨量

2) S28年6月の被害状況は福岡県災害誌(1954年刊行)により推定

3) S38年～H22年7月までは水害統計より

4) H26年は福岡県の速報値(被害は県管理区間を集計)

2.1.2 維持管理

2.2 河川利用及び河川環境の現状と課題

2.2.1 河川水の利用

53

6

2.2.2 河川空間の利用

2.2.3 河川環境

(1) 河川環境

(2) 水質

3. 河川整備計画の目標に関する事項

3.1 河川整備計画における基本理念

基本理念			

3.2 河川整備計画の対象区間

表 3.1 計画対象区間

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
御笠川	左岸：太宰府市大字北谷地先 右岸： 同上	河口	左：24.15 右：23.30
諸岡川	左岸：春日市日の出町2丁目地先 右岸：福岡市博多区南八幡町1丁目82地先	御笠川への合流点	左：4.11 右：4.10
牛頸川	左岸：大野城市大字牛頸地先の玉佐々橋 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：8.21 右：8.17
大佐野川	左岸：太宰府市大字大佐野地先 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：4.51 右：4.50
鷺田川	左岸：筑紫野市二日市中央5丁目地先の県道迎田橋 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：2.07 右：2.05
高尾川	左岸：筑紫野市紫2丁目地先 右岸： 同上	鷺田川への合流点	左：1.48 右：1.48
太宰府原川	左岸：太宰府市大字太宰府地先の砂防ダム 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：0.86 右：0.86
水瓶川	左岸：太宰府市連歌屋3丁目地先 右岸： 同上	太宰府原川への合流点	左：0.18 右：0.18
上牟田川	左岸：福岡市博多区半道橋2丁目地先 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：0.67 右：0.68
御笠川 放水路	御笠川左岸 福岡市博多区東光寺2丁目地先	那珂川右岸 福岡市博多区美野島4丁目地先	左：1.72 右：1.72
山の神川	左岸：太宰府市大字北谷地先 右岸： 同上	御笠川への合流点	左：1.15 右：1.03

3.3 河川整備計画の対象期間

30

3.4 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

28 6

11

15 7

1/100

1,000m³/s

135m³/s
60m³/s

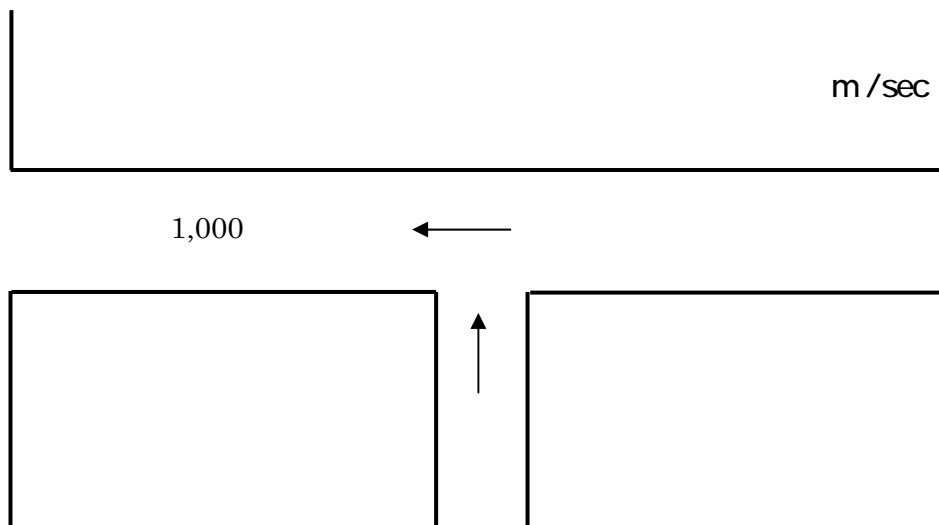


図 3.1 整備計画目標流量配分図（御笠川）

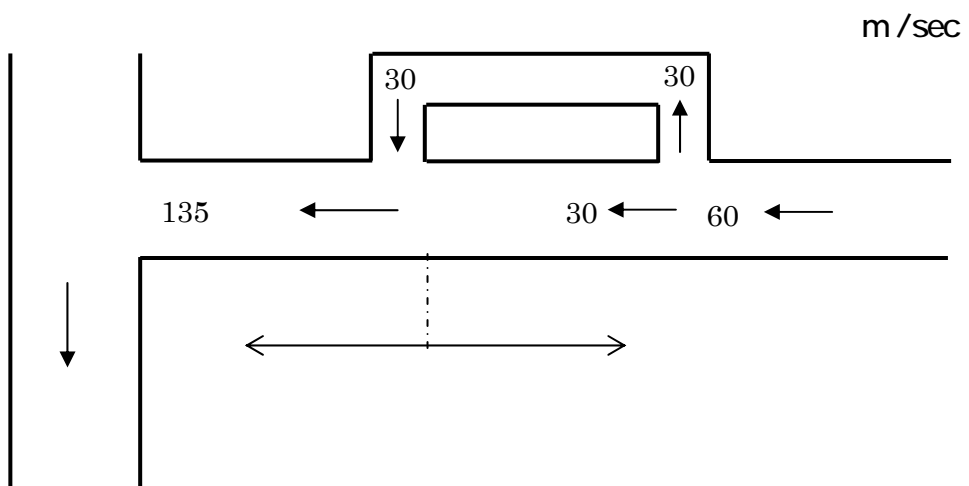


図 3.2 整備計画目標流量配分図（鷺田川及び高尾川）

3.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

3.6 河川環境の整備と保全に関する目標

4. 河川整備の実施に関する事項

4.1 河川整備の実施に関する考え方

(1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

(3) 河川環境の整備と保全に関する事項

4.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の概要

4.2.1 河川工事の目的

4.2.2 河川工事の種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(1) 洪水対策

4.1

4.1

表 4.1 施行の場所

河川名	施行区間	施行延長
御笠川	河口～五条橋	約 17.4km
鷺田川・高尾川	赤岸堰（鷺田川）～西鉄橋梁下流（高尾川）	約 2.1km

◇

◇

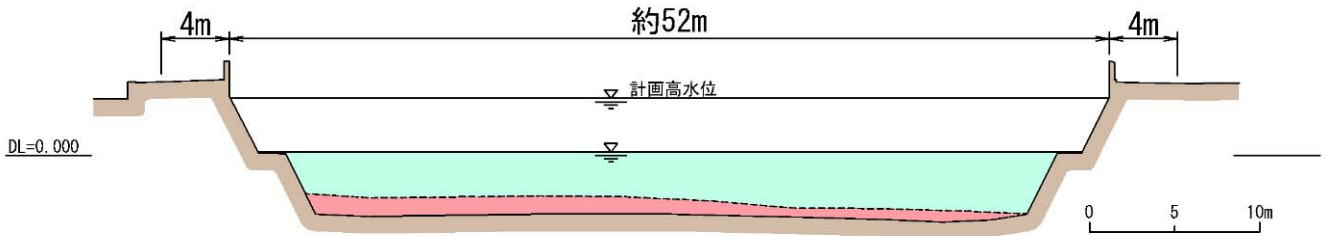
◇

◇

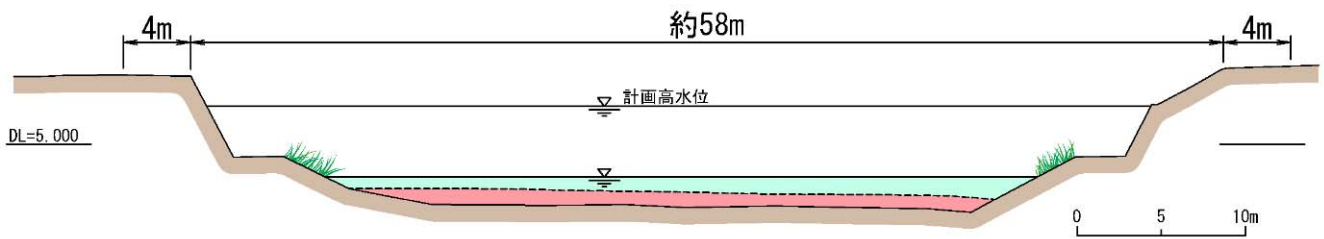
◇

◇

東光橋付近（2k500付近）



御笠川浄化センター付近（6k000付近）



大野城橋付近（12k800付近）

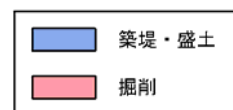
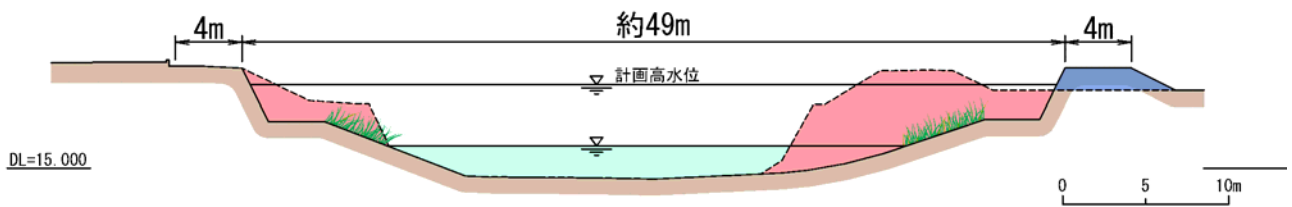


図 4.1 御笠川イメージ横断面図

多々良橋上流付近（1k660付近）

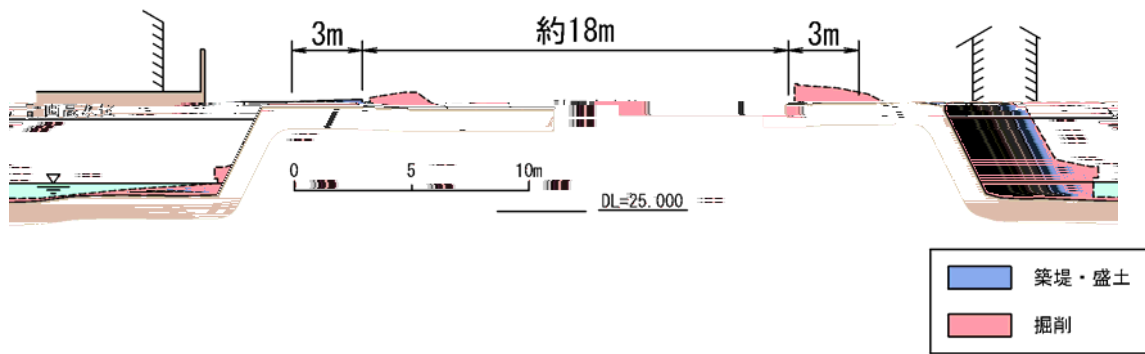


図 4.2 鷺田川イメージ横断面図

水道橋付近（2k200付近）

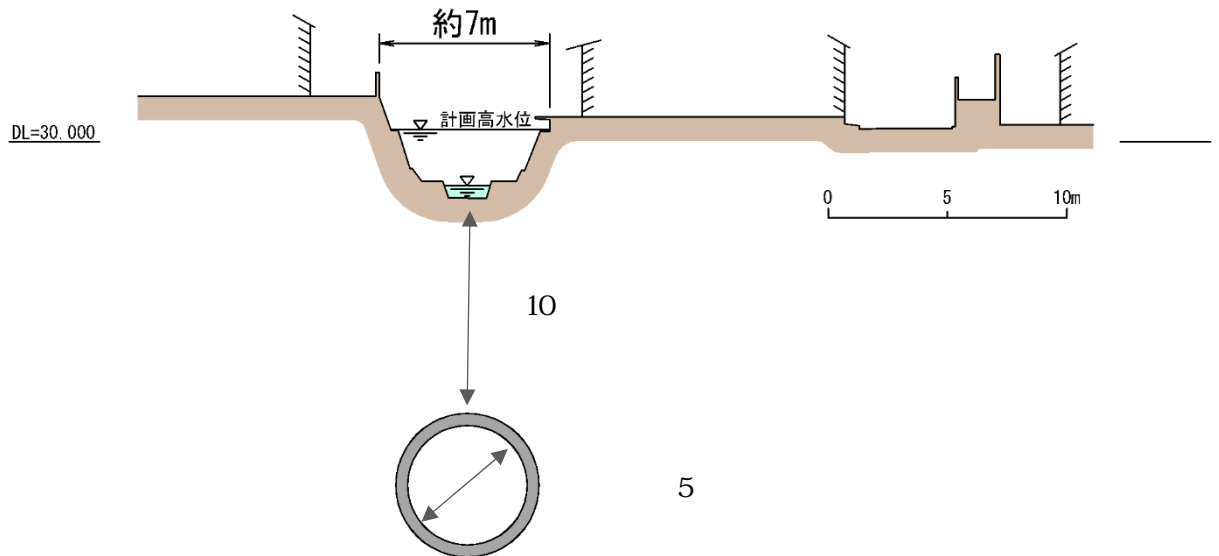


図 4.3 高尾川イメージ横断面図

(2) 局所的な対応

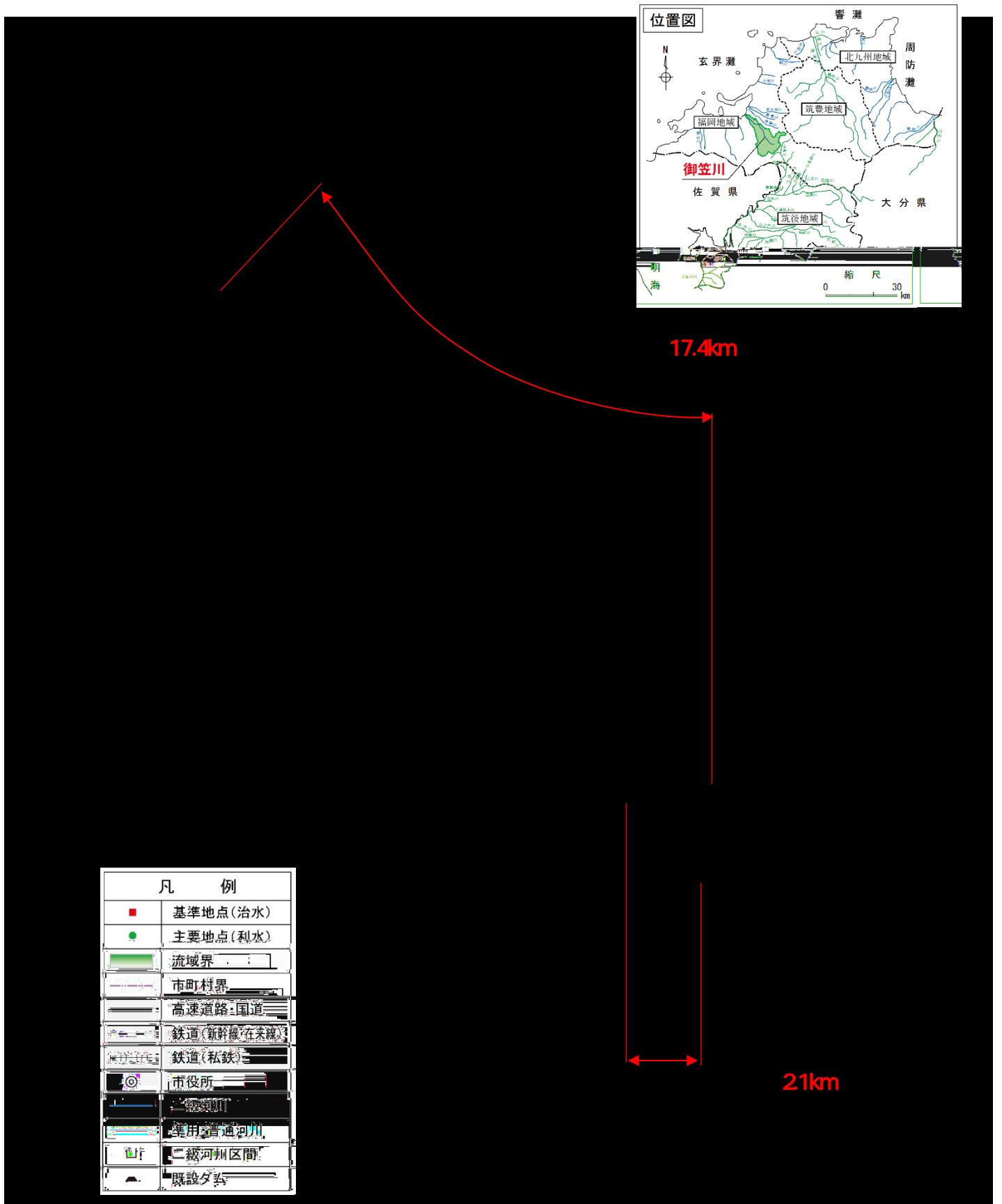


図 4.4 御笠川水系概要図

4.2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

4.2.4 河川環境及び河川の利用の整備と保全に関する事項

4.3 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

4.3.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

(1) 河川管理施設の維持管理・災害復旧

(2) 河道の維持管理

(3) 洪水時等の管理

4.3.2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

(1) 河川水の利用

(2) 河川の水質保全

4.3.3 河川環境の整備と保全に関する事項

5. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

5.1 まちづくりと一体となった河川整備

5.2 地域と連携した河川管理

5.3 防災意識の向上

5.4 地下水涵養の促進

